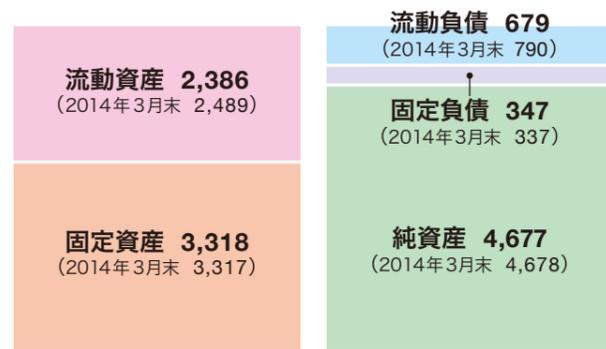


■ 貸借対照表 (2014年9月30日現在) (単位:億円)



	2014年9月末	2014年3月末
総資産	5,703	5,806
純資産	4,677	4,678

当期より研究開発費に関する会計方針の変更を行っております。そのため2014年3月末は遡及修正後の数値を用いて記載しております。

流動資産は、主として短期運用の有価証券の減少により、2014年3月末と比べて103億円減少しました。固定資産は同微増でした。

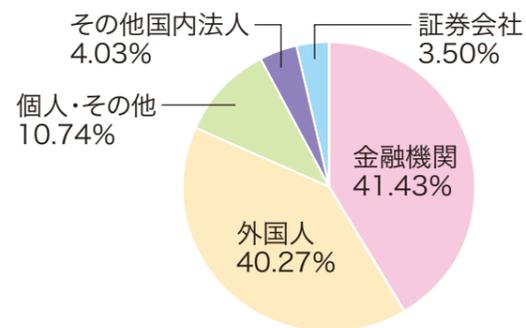
流動負債は、社債の償還により200億円の減少、過年度法人税の計上による未払法人税等の111億円増加などにより、同111億円減少となりました。固定負債は、同10億円増加となりました。

純資産は同微減でした。

株式の状況

(2014年9月30日現在)

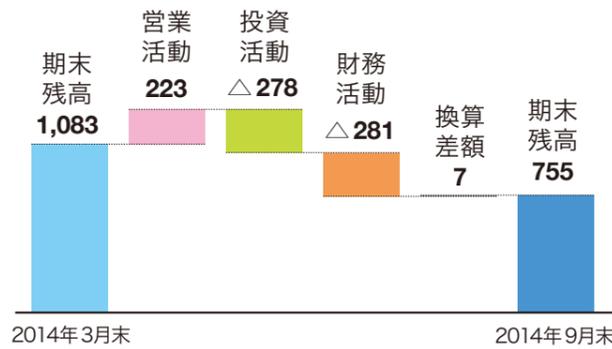
- 発行可能株式総数 1,000,000,000株
- 発行済株式の総数 351,136,165株
- 株主数 27,388名
- 所有者別株式分布



(注)持株比率は、発行済株式の総数から自己株式を控除した334,905,320株に対する割合として算出しております。



■ キャッシュ・フロー (単位:億円)



営業活動: 税金等調整前四半期純利益、減価償却費、のれん償却額などのキャッシュ増加がある一方、法人税等の支払などにより、223億円の収入となりました。

投資活動: 主に余資運用を目的とした有価証券の取得や、有形固定資産の取得により、278億円の支出となりました。

財務活動: 社債の償還による支出、配当金の支払などにより、281億円の支出となりました。

■ 1株当たり配当金

	中間	期末	年間
2013年度	22円	24円	46円
2014年度	24円	24円(予定)	48円(予定)

株主メモ

- ◇事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- ◇定時株主総会 6月
- ◇基準日 定時株主総会:3月31日 期末配当金:3月31日 中間配当金:9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
- ◇単元株式数 100株
- ◇公告掲載方法 電子公告 当社インターネットホームページ (<http://www.shionogi.co.jp/>) に掲載しています。
- ◇上場証券取引所 東京
- ◇証券コード 4507
- ◇株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社 (東京都千代田区丸の内1丁目4番1号)
- ◇同事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (大阪市中央区北浜4丁目5番33号) (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (電話照会先) ☎0120-782-031 (インターネットホームページ) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

◀株式事務手続きのご案内▶

◆住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等のお届出およびご照会先

証券会社等の振替口座で保有されている株式に関する手続	株主様が口座を開設されている証券会社等
特別口座に記録された株式に関する手続	当社が特別口座を開設している三井住友信託銀行(ご照会は上記の電話照会先をお願いいたします。)



株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社の2014年度上期の事業概況のご報告にあたりまして、この間に株主の皆さまから賜りましたご支援、ご協力に厚く御礼申し上げます。

本年4月より新中期経営計画 SGS2020をスタートしました

当社グループは、急速な環境変化に対応しながら中長期的な成長を続けるため、2020年度に向けた成長戦略を明確に定めた新中期経営計画「Shionogi Growth Strategy 2020(SGS2020)」を策定し、4月より新たなスタートを切りました。「創薬型製薬企業として成長する」ことをビジョンに掲げ、患者さまに必要とされる画期的な新薬を創製し世界中の患者さまにお届けできるグローバル製薬企業を目指します。本年度は、 Crestor(高コレステロール血症治療薬「 Crestor」)のロイヤリティ収入の減少を早期に克服することで真の成長ステージに移行すべく、「選択と集中」を推進し、中長期的な成長に向けた基盤を築く1年となるよう取り組んでまいります。

上期の具体的な取り組みについて

グループ全体で注力すべき製品や事業活動の「選択と集中」に取り組むとともに、効果的な費用配分や、原価低減などコストコントロールの強化にも取り組んでいます。

国内医療用医薬品につきましては、薬価改定や後発医薬品推進策の加速により市場環境が一段と厳しくなる中、引き続き最重要戦略3品目に注力するとともに、患者さまの視点に立った「患者軸」での情報提供活動を推進しております。米国では閉経後陰萎縮症治療薬「オスフィーナ」の製品価値最大化に向けた販売戦略の強化に取り組んでいます。また、研究開発活動においては成長ドライバーを



代表取締役会長

塩野元三

代表取締役社長

手代木功

新中期経営計画(SGS2020)のVISION

創薬型製薬企業として成長する

シオノギが考える創薬型製薬企業

- ・First in Class、Last in Classの創薬研究に取り組んでいる
- ・日米欧亜に開発・販売拠点を有している
- ・上記の創薬研究・開発から生み出された新薬および情報をグローバルに提供している

FIC
First in Class
特に新規性・有効性が高く、従来の治療体系を大幅に変える創薬型医薬品

LIC
Last in Class
同様のメカニズムで明確な優位性をもち、他の新薬の追随を許さない医薬品

見極め、迅速な開発を推進することで、主要パイプラインのフェーズが着実に進展しております。昨今、世界的に問題となっている多剤耐性菌への効果が期待される重症グラム陰性菌感染症治療薬S-649266は、良好な非臨床およびフェーズI試験結果が得られたことから開発を加速し、グローバルフェーズIIに移行いたしました。

今後も、世界中の患者さまに、FIC、LICとなる革新的な新薬をお届けできるよう、引き続きグループ一丸となって取り組んでまいります。

シオノギの基本方針(1957年制定)

シオノギの目的

シオノギは、常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する。

そのために

- 益々よい薬を創り出さねばならない。
- 益々よい薬を造らねばならない。
- 益々よい薬を益々多くの人々に知らせ、使って貰わねばならない。
- 創り、造り、売ることを益々経済的にやりとげねばならない。

そのために

シオノギの人々のあらゆる技術が日々休むことなく向上せねばならない。シオノギの人々が、人間として日々休むことなく向上しなければならない。

その結果

シオノギの人々は日々の仕事と生活に益々生甲斐を感じる。シオノギの人々の生活の仕方が益々改善せられる。シオノギの人々の生活が益々豊かになる。

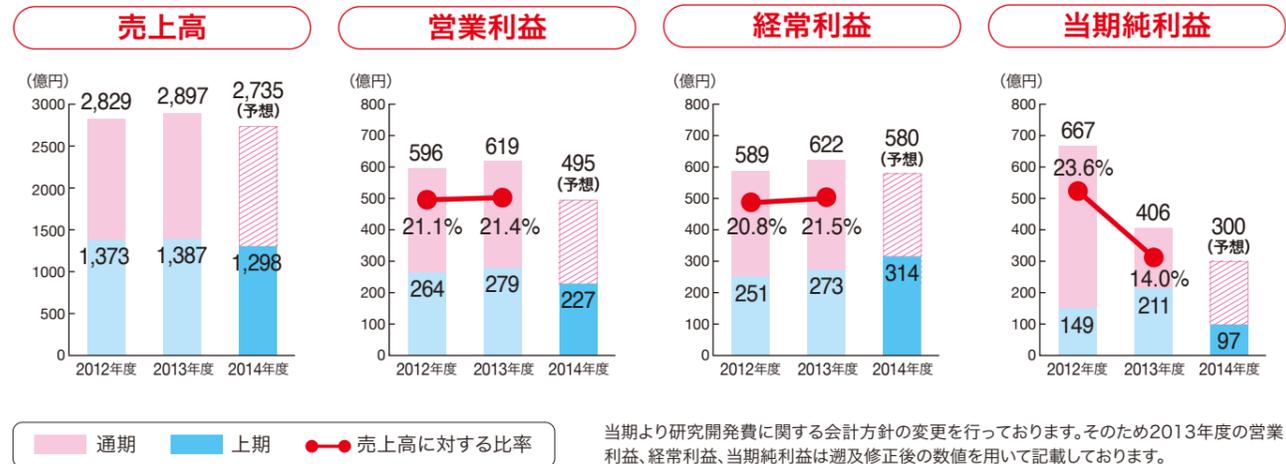


上期の活動報告

業績のポイント

売上高につきましては、国内医療用医薬品において、最重要戦略3品目である「クレストール」「イルベタン」「サインバルタ」を中心とする戦略8品目が堅調に推移する一方で、薬価改定の影響や後発医薬品使用促進策の浸透もあり、前年同期比4.9%の減少となりました。海外におきましては、米国子会社シオノギInc.の「オスフィーナ」の売り上げが徐々に増加しておりますが、前年度に実施した品目売却の影響もあり、海外売上高全体で同5.2%の減少となりました。また、昨年ロイヤリティーの受け取りに関する契約を変更したクレストールのロイヤリティー収入は、同21.8%の減少となりました。これらの結果、売上高全体では同6.4%の減収となりました。

利益につきましては、グループ全体で販売関連費用および研究開発費の効率的な使用に取り組んだ結果、販売費及び一般管理費は同6.2%の減少となりましたが、上述のクレストールロイヤリティーの減収等による売上総利益の減少(同9.6%減)などにより、営業利益は同18.7%の減益となりました。経常利益は、ViiV社からの受取配当金の増加、円安による外貨建資産の評価益などにより同15.0%の増益となり、上期累計として3年連続で過去最高益を達成いたしました。四半期純利益は、本年9月に大阪国税局からの更正通知を受領したことを踏まえ、過年度法人税等を引き当てたことにより税金費用が大幅に増加し、同53.9%の減益となりました。なお、今回の更正処分については、遅滞なく不服申し立て等あらゆる必要な措置を講じていく予定です。



当期より研究開発費に関する会計方針の変更を行っております。そのため2013年度の営業利益、経常利益、当期純利益は遡及修正後の数値を用いて記載しております。

通期業績予想の修正

売上高につきましては、ロイヤリティー収入を為替レートの見直しを含め上方修正し、増加となる見込みです。下期においては、中長期的な成長を見据え販売活動や研究開発活動を積極的に実施しますが、売上高の増加ならびにコストコントロールの徹底により、営業利益は通期で増加を見込んでいます。経常利益は、上記の要因に加え、為替差益の要素もあることから増加の見込みです。当期純利益は、当期に計上しました過年度法人税等の引き当てにより、従来予想からは減少となる見込みです。

	2014年度当初	2014年度修正	増減額
売上高	2,690	2,735	45
営業利益	450	495	45
経常利益	500	580	80
当期純利益	330	300	△30



トピックス

5月 「Shionogi Singapore Pte. Ltd.」を開設
 将来の重要なマーケットと位置付けているASEAN地域でのシオノギ製品の開発・販売活動を行う拠点として、シンガポールに当社の100%出資子会社である「Shionogi Singapore Pte. Ltd.」を設立いたしました。

9月 消化性潰瘍治療薬「澳博平®」(アオボピン)の新発売
 中国子会社のC&O Pharmaceutical Technology (Holdings) Limited (C&O社)が、中国において消化性潰瘍治療薬「澳博平®」(注射剤、一般名:ラベプラゾールナトリウム)を新医薬品として発売いたしました。本薬はC&O社が研究開発を行った、中国国内初のラベプラゾールナトリウム注射剤です。

8月 睫毛貧毛症治療薬「グラスシユビスタ®外用液剤 0.03% 5mL」の販売契約締結
 国内初かつ唯一の睫毛貧毛症治療薬(まつ毛貧毛症治療薬)の販売提携契約をアラガン・ジャパンと締結し、10月に本薬を発売いたしました。外用尋常性ざ瘡(ニキビ)治療薬「ディフェリン®ゲル0.1%」とともに皮膚科領域でのプレゼンス向上に取り組んでまいります。

抗HIV薬「テビケイ」フランチャイズ
 中長期の安定的な収益源として順調に拡大

4月 抗HIV薬「テビケイ®錠50mg」(一般名:ドルテグラビル)の新発売
 本薬は、低用量かつ1日1回の経口投与、薬剤耐性ウイルスを発現させにくいなどの特長を有します。医療関係者ならびにHIV患者の皆さまに広く「テビケイ®錠」をお届けできるよう、ViiV社と共同で情報提供活動を推進してまいります。

ViiV社による「テビケイ」を含む配合剤(Triumeq®)の承認取得
 ViiV社は「テビケイ」を含む配合剤(Triumeq®)の承認を取得し(米国:8月、欧州:9月)、販売を開始しております。

「テビケイ」は、当社とViiV社により共同開発された新規HIVインテグラーゼ阻害薬であり、現在はViiV社が関連化合物を含めた全世界での開発ならびに販売の権利を保有しております。当社はViiV社株式の10%を保有する株主として経営に参画するとともに、ViiV社の業績に応じた配当金や、「テビケイ」および関連化合物(配合剤を含む)のグローバル販売に応じたロイヤリティーを受け取る権利を保有しております。

パイプライン

(2014年10月現在)

優先すべき開発品の「選択と集中」により、国内外で開発のスピードアップを図っています。主要パイプラインの開発状況は以下のとおりです。

領域	開発No.(一般・製品名)	適応症	フェーズ
感染症	S-649266	各種細菌感染症	フェーズ II
	LY248686 (デュロキセチン塩酸塩 サインバルタ®)	線維筋痛症	申請中
		慢性腰痛症	申請準備中
疼痛・神経	S-297995	変形性関節症	フェーズ III
	S-877503	オピオイド投与に伴う消化器症状	フェーズ III
	S-877489	ADHD(注意欠陥・多動性障害)	フェーズ II/III
フロンティア	S-524101	ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎	フェーズ III
	S-888711	血小板減少症	申請準備中
			フェーズ II

: 国内開発品 : グローバル開発品